

創

- 昭和34年 4月 町制施行(総理府告示第90号)
初代町長阿部権之丞氏
人口7,394人 世帯数1,005世帯
- 昭和35年 3月 歌津町公民館新築
5月 チリ地震津波襲来
6月 町長に阿部権之丞氏当選
10月 漁港整備事業開始
10月 国勢調査 人口7,052人 世帯数1,080世帯
- 昭和36年 11月 名足小学校校舎新築
11月 白山地区に電灯設置(無電灯地区解消)
- 昭和37年 4月 全住民検診開始
- 昭和38年 10月 学校給食共同調理場建設(小・中学校完全給食開始)
- 昭和39年 6月 町長に牧野興次氏初当選
- 昭和40年 4月 歌津町出漁会結成
6月 吉野沢にごみ焼却場落成(ごみ収集業務開始)
7月 伊里前川防潮水門完成
10月 国勢調査 人口6,663人 世帯数1,117世帯
- 昭和41年 3月 上沢分校廃止(スクールバス運行開始)
6月 歌津町商工会設立
12月 伊里前小学校中央校舎増築
- 昭和42年 4月 歌津町交通指導隊発足
6月 歌津町文化財保護条例制定
- 昭和43年 6月 町長に牧野興次氏当選
6月 明治100年記念植樹
10月 歌津郵便局舎新築
10月 町章制定
- 昭和44年 3月 林道小屋の沢線開通(4,612m)
4月 農集電話開設(834戸)
6月 泊漁港二種漁港に昇格
- 昭和45年 3月 港分校廃止
5月 中西縫製(株)創業(現チトセイイング(株))
6月 全町有線放送開設
9月 ウタツギヨリユウ化石発見
10月 国勢調査 人口6,455人 世帯数1,185世帯
- 昭和46年 4月 田束山レストハウス開設
5月 児童手当支給業務開始
7月 上水道事業に着手
8月 保原水産名足工場創業
10月 田束山経塚群11基発見
11月 名誉町民に阿部権之丞翁推戴



田束山経塚群発見 (昭和46年)



上沢分校とスクールバス (昭和41年)



ウタツギヨリユウ化石発見 (昭和45年)



チリ地震津波襲来 (昭和35年)



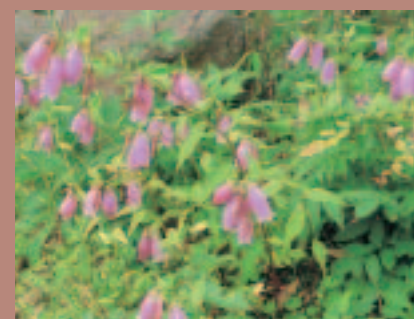
町制施行記念パレード (昭和34年)



役場落成式 (昭和30年)



昭和31年頃の伊里前地区



なつかしい故郷の花の一つである。

螢袋
歌津村の初夏は、山背が吹く。北東風の山背は凶作の原因。霧か小雨も一緒の風景の中、下向きに楚々と咲く。
家号の下の小路家はわが家の北隣り。明治29年の大津浪で高台に。わが家は昭和8年の津浪で流出。村にも部落にも宿命的な要素はまつわる。隣りの、朝草刈りの馬の背にもこの花はあった。
私は津浪で頭と足に大怪我。軍医の「砂をとる、坊主にしろ」の声に泣き叫んで抵抗。大きな炉の中に流れ落ちての命拾い。
土手の螢袋を見つけ、麦畑の中を行くと、ひばりの巣の卵を、大きな青大将がねらう。親は急を告げ、地表近くを、はげしく上下していた。当時の里山が目に見え、子供達はこの花を梅酢に漬け、ふくらませて遊ぶ。「アンブクレンコ」と呼んで特に親しんだ。



東京都中野区在住 (名足出身)
男澤 妙子さん

昭和40年代の地方交付税の算定
毎年全国各地道府県毎に7月、8月頃にかけて地方交付税の算定が行われる。
宮城県に於いても地方課(現在は市町村課)より県内各市町村に算定期日の通知があり、各市町村から総務課長と財政係が仙台に出張する。(小生が担当の時の総務課長は故佐藤榮太郎名誉町民であった)
当日午前中は地方課長そして財務係長よりの説明を受ける。午後から県内各市町村の担当者、それぞれが会場(旅館)に分れて算定会場まで真夏の暑さの中を資料を持って汗びっしょりになって歩いた。(説明会場が算定会場から遠い場合は大変だった)
計算は殆んど算盤を使用し(計算機はなかった)算定用紙に記入していき、検算を済ませた町村から県職員による検取が始まる。読み上げが早いので珠算の上級検定を受けているような気持で張りつめていた。こちらで答えを告げると正確な場合は「受け取った」となる。この言葉を聞く度に、ほっとしたものである。
本吉地方のうち津山町を除く4町(唐桑、本吉、歌津、志津川)の宿は二十人町の三盛館だった。(現在はもうなくなっているか不明)4町の検取が終れば県職員(2名)を招待しての夕食兼慰労会となる。この思い出は終生忘れられない。その後手動による計算機が発売され計算事務はかなり楽になったが計算機が重く説明会場から計算会場まで移動するのに大変だった記憶が今も残っている。



(名足)
佐藤 直三さん

あの日の時
The Story